

法人（事業所）理念	一人ひとりの“well-Being”実現をサポートする			
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本、制作などの遊びを通して情報を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「介育スピリチュアル」でお子様に寄り添います。 			
営業時間	9時	30分から	17時	00分まで
本人支援	ねらい	支援内容		具体的な活動や支援内容
	健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得</p> <p>健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の変異に気づくよう、きめ細かな観察を行う。</p> <p>(b) 食事の摂取</p> <p>睡眠・食事・排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を當む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・自助具等に関する支援を行なう。さらに、病気の予防や安否への確認を行なう。</p> <p>(c) リハビリテーションの実施</p> <p>日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的・精神的・社会的訓練を行う。</p> <p>(d) 基本的活動スキルの獲得</p> <p>自らの活動を満喫するため、歩行・移動・洗濯・衣類の着脱・排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。</p> <p>(e) 構造化されたより生活環境を整える</p> <p>生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>		来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事・排泄・着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。
	運動・感覚	<p>(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用</p> <p>(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上</p> <p>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び獲得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。</p> <p>(b) 姿勢保持・運動・動作の補助的手段の活用</p> <p>日常生活で姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。</p> <p>(c) 身体の移動能力の向上</p> <p>自力での身体移動や歩行・歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。</p> <p>(d) 保有する感覚の活用</p> <p>保有する視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。</p> <p>(e) 感覚的問題及び手筋の活用</p> <p>手筋の問題を抱えるお子さまには、手筋を適切に活用して支援する。</p> <p>(f) 感覚の個性（感覚の過敏や鈍麻）への対応</p> <p>感覚や認知の個性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。</p>		体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。サークルなど異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて、筋力・持久力・柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行ないます。色々や形の異なるフックや給水などの教材を用いて、観察的に理解する力の向上を促します。機知をもつて活動を行なうお子さまが自信を持った活動・ゲームに取り組むことで体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で耳こすりや聴いて理解する力を促進します。
	認知・行動	<p>(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数などの概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</p> <p>(a) 感覚や認知の活用</p> <p>視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。</p> <p>(b) 知覚から行動への認知過程の発達</p> <p>環境から情報を取得する手順を理解して、それから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p> <p>(c) 認知や行動手筋の習得</p> <p>認知や行動手筋を理解する手筋に入っている様々な眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。</p> <p>(d) 行動障害への予防及び対応</p> <p>感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</p>		買い物や料理を通じてお金の使い方や計算・時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間・数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行ないます。
	言語コミュニケーション	<p>(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>(a) 言語の形成と活用</p> <p>具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。</p> <p>(b) 受容言葉や表出言葉の支援</p> <p>話し言葉や各類の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。</p> <p>(c) 人の組合せによるコミュニケーション能力の獲得</p> <p>個々に配慮された場面における人の組合せ作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。</p> <p>(d) 指差し、身振り、サイン等の活用</p> <p>指差し、身振り、サイン等で用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。</p> <p>(e) 読み書き能力の向上のための支援</p> <p>読み書き能力の向上のための支援</p> <p>(f) コミュニケーション機能の活用</p> <p>発達段階に応じて、空間・時間の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。</p>		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が図面を理解し応答しながら、遊びややりとりを通して人への心懸けます。表情やジェスチャー、視線などを用いたコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触ったりしながら、こどもの感覚を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことはを学ぶ環境を提供し、日常会話や活動で新しいことはや概念を学ぶ機会をつくります。また、「貸して」「貸ししよに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。
	人間関係・社会性	<p>(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加</p> <p>(a) アタッチメント（愛着行動）の形成</p> <p>人の関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。</p> <p>(b) 横断行動の支援</p> <p>遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。</p> <p>(c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援</p> <p>感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつむぎ遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。</p> <p>(d) 一人遊びから協同遊びへの支援</p> <p>同じ子どもたちがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守つて遊び等の協同遊びへとつなげていく社会性の発達を支援する。</p> <p>(e) 行動の規範とコントロールのための支援</p> <p>大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。</p> <p>(f) 集団への参加への支援</p> <p>集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。</p>		事前に視覚的な手掛けを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他の人の感情を理解し、適切に表現できるよう、職員がモデルを示します。
家族支援	<p>・個別療育や集団療育を行なう活動の内容を説明する資料や、児童向けサービス登録証にてお伝えします。</p> <p>・6ヶ月ごとに回観度、モニタリングは定期的開催の機会で開催、保護者に共有していきます。</p> <p>・個別療育の範囲を明確にして支援のポイントや個別リポートを行ないます。</p>		移行支援	<p>・必要に応じて学校にて説明し、児童との開けかたについて情報共有、支援方針を計画します。</p> <p>・事業所での様子を撮影し、児童との開けかたについて情報共有、支援方針を計画します。</p> <p>・事業所での様子を撮影し、児童との開けかたについて情報共有、電話・電話等で伝え、日々の児童の情報交換を行ないます。</p> <p>・学校での授業時、先生とお子さまの様子や事業所での様子に心の情報共有を行ないます。</p>
地域支援・地域連携	<p>・認知症等の高齢者への対応、個別支援を行ないます。</p> <p>・連携会議を定期的に行なう。情報収集・情報交換・個別支援の相談に開催して協議して協議します。</p> <p>・各関係機関の情報収集に基づき、具体的な地圖での開けかたや、因りごとに開けたての提案のポイントを共有します。</p> <p>・セルフプランの方には利用計画のコード・ネットの申請を担う事業所の開発する会議に参加し、情報共有を行ないます。</p>		職員の質の向上	<p>・プロフェッショナル本部にて下記研修実施</p> <p>・スタッフ研修</p> <p>・専門職員によるスキルアップ研修</p> <p>・虐待防止研修</p> <p>・精神障害児の社会融入研修</p> <p>・感染症対策研修</p> <p>その他</p> <p>・児童虐待ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施</p>
主な行事等	<p>・季節の行事</p> <p>・近隣施設や公園への外出活動</p>			